

平成24年度 都立図書館自己評価

平成 25 年 8 月

東京都立図書館

目 次

I	都立図書館の概況及び自己評価（総括）		
1	概況	1
2	自己評価について		
3	重点事業の評価（総括）		
4	基礎指標（総括）		
II	重点事業の評価		
1	ビジネス情報サービス	4
2	法律情報サービス	10
3	健康・医療情報サービス	15
4	東京マガジンバンク	21
5	学校教育活動への支援事業	27
III	基礎指標一覧表	33
IV	参考		

I 都立図書館の概況及び自己評価（総括）

1 概況

中央図書館は、広範な資料の閲覧サービス及び調査研究への支援、都内公立図書館に対するレファレンスの支援及び資料の貸出などを実施している。多摩図書館は、一般雑誌から学術雑誌まで揃えた「東京マガジンバンク」での雑誌による専門的情報サービス、子供の読書に関わる方を対象とした相談を含む児童・青少年サービスを実施している。

平成 24 年度は引き続き重点的情報サービス(ビジネス情報、法律情報、健康・医療情報、都市・東京情報)、東京マガジンバンク、学校教育活動の支援事業等のサービスを着実に推進した。また、新たにデジタル化資料を一元的に管理するためのデータベースの開発や東日本大震災の経験を踏まえた資料の防災に関する取組、多摩図書館の移転改築に向けた基本設計を行った。

また、第 25 期都立図書館協議会提言「都民の課題解決に役立つ図書館を目指して～より質の高い図書館サービスの追求～」(平成 25 年 3 月)により、図書館サービスの向上及び運営の改善策が示された。この提言では、特にビジネス情報サービス、法律情報サービス、健康・医療情報サービス、東京マガジンバンク、学校教育活動への支援事業の5つの事業が取り上げられ、各サービスについて、その実現過程で自己評価を定期的かつ適切に行い、一層の質的向上を図るべきとされた。

この提言を踏まえ、雑誌記事索引とのシステム連携に向けた国立国会図書館との協議や、外部専門家による蔵書評価等を実施した。また、専門図書館などネットワークの活用等についても取り組んでいく。

2 自己評価について

第 23 期都立図書館協議会提言「都立図書館のサービスと図書館改革の評価について」(平成 20 年 11 月)を受け、平成 20 年度から利用者本位の質の高いサービスを提供することを目的に、都立図書館評価を行うこととなった。平成 20 年度は、「タイムリーな企画展等の実施」など 11 事業について評価を行い、平成 21・22 年度は、この 11 事業に「東京マガジンバンクのサービス」を加えた 12 事業について評価を実施した。

この3か年の評価により、対象事業の成果や都立図書館サービスの全体状況について把握できたことや、第 24 期都立図書館協議会における「事業の重点化を図るべき」との意見も踏まえ、平成 23 年度から「ビジネス情報サービス、法律情報サービス、健康・医療情報サービス、東京マガジンバンク、学校教育活動の支援」の5事業を評価の対象事業とした。また、都立図書館のサービス全般について把握するため、68 項目の基礎指標を設定した(27 ページ以降参照)。平成 24 年度は、5事業を評価対象として2年目となる。

3 重点事業の評価（総括）

評価対象である5つの事業について、評価の概要は以下のとおりである。

(1) ビジネス情報サービス

ビジネス情報に関する資料の収集については、利用者の利便性を高めることができたものと考えているが、コーナー以外に配架されているビジネス情報への効果的な誘導が課題である。

また、検索講習会や就職活動セミナーなど効果的なサービスを行うことができたが、レファレンス件数が昨年度比で減少していることについて、別途分析が必要である。

都内区市町村立図書館職員に対するビジネスレファレンス研修では、参加者のビジネスレファレンス能力の向上に役立つものと考えている。

(2) 法律情報サービス

法律情報に関する資料の収集については、利用者の利便性を高めることができたものと考えているが、コーナー以外に配架されている法律情報資料への効果的な誘導が課題である。

また、検索講習会や無料法律相談会など効果的なサービスを行うことができたが、法律情報サービス講演会の実施内容や開催日時等について、ニーズに対応した実施が必要である。都内区市町村立図書館職員に対する法律情報レファレンス研修では、参加者のレファレンス能力の向上に役立つものと考えている。

(3) 健康・医療情報サービス

健康・医療情報に関する資料の収集については、利用者の利便性を高めることができたと考えているが、今後さらに、外部専門家による蔵書評価に基づく資料収集や配架の工夫を行う必要がある。

講演会では、概ね効果的なサービスを行うことができたが、依然として都民の健康に対する関心が高いと考えられ、より多くの都民が参加しやすい形で開催するなど、サービスの一層の向上が必要である。

都内区市町村立図書館職員に対する健康・医療情報レファレンス研修では、参加者のレファレンス能力の向上に寄与したものと考えている。

(4) 東京マガジンバンク

資料案内の作成・配布、行事の企画・広報等を通じて利用促進の工夫をした結果、書庫出納冊数等の増加や行事参加者の高い満足度が示すとおり、一定の成果・評価を得たと考えている。

今後は、広く都民に向けたサービスに加え、より効果的なサービスの実施に向け、第 25 期都立図書館協議会で提言されたターゲット(放送・新聞・広告関連や文筆業など「情報発信のプロフェッショナル」等)を意識した取組を図る必要がある。

(5) 学校教育活動への支援事業

資料の収集については、学校教育活動への支援事業に必要な資料の充実が図られたと考えている。

多摩図書館の実践を踏まえて作成された『特別支援学校での読み聞かせ 都立多摩図書館の実践から』や『読み聞かせABC 集団の子供たちへの読み聞かせに』等の学校支援ツールについては、利用者からの評価は高いが、一部の学校の利用に留まっており、更に広く周知を図る必要がある。

学校支援レファレンス件数は昨年度比で減少しており、広報方法や学校現場のニーズの把握について検討し、サービスを拡充していくことが課題である。

4 基礎指標（総括）

基礎指標の中で特に重要と考えている指標について、平成 24 年度の状況を取りまとめた。

(1) 図書館資料等

資料購入費(指標4)については、平成 23 年度と同額の予算を措置し、資料の充実を図るための財源を引き続き確保した。このことにより、図書資料受入冊数(購入 42,131 冊 受贈 9,849 冊 指標6)及び雑誌受入タイトル数(購入 4,063 種 受贈 4,475 種 指標7)は平成 23 年度とほぼ同等の数値となっている。

オンラインデータベースは提供経費(17,360 千円 指標 13)、提供タイトル数(34 種 指標 14)、総利用数

(件数11,285件 時間数5,643時間 指標22)すべて増加しており、また特別文庫室所蔵資料のデジタル化件数も6,602件(指標9)と前年比1.5倍となった。都立図書館がいわゆるハイブリッド型の情報提供サービス※1を推進してきた結果が数値に表れたと考えている。

※1 アナログ資料とデジタル資料を効果的に組み合わせたサービス(資料の収集・組織化や提供)のこと。

第24期「デジタル時代の都立図書館像」(平成23年3月)で方向性として示された。

(2) 利用状況

入館者数(428,226人 指標15)については前年度を上回ったものの、平成23年度は東日本大震災の影響による閉館時間の繰上げがあったため、必ずしも入館者が実質的に増加しているとは言えない。

レファレンス件数は、前年度から減少しており(79,370件 指標28)、背景や原因等について調査し、改善を図ることが課題である。

(3) 実施事業

展示については、前年度より実施回数、実施期間が増加したこともあるが、来場者数が前年度比1.9倍増(118,930人 指標35)となった。このことにより新たに都立図書館を知った人数(来場者新規認知者数 指標36)も増加しており(平成23年度851人 平成24年度1,628人)、認知度の向上に寄与したといえる。

子供読書活動推進事業は、「第二次子供読書活動推進計画」に基づき実施してきた事業であり、行事の参加者数(26,001人 指標41)、子供読書活動推進資料の配布数(216,930冊 ※2 指標42)ともに平成23年度を上回った。しかし、子供読書活動推進資料の配布に際しては、配布先における活用状況を把握するとともに、より効果的に活用されるよう、配布方法や広報を工夫することが課題である。

※2 内訳は、「子どもたちに物語の読み聞かせを」101,230冊、「羅針盤Ⅱ」115,700冊、合計216,930冊

(4) 利用者重要度・満足度 ※3

都立図書館全体(中央・多摩)に対する来館者の重要度・満足度(指標58)については、3年連続で4.0ポイントを上回っている。また、それぞれの蔵書の質・量(指標59)、レファレンスサービスに対する満足度(指標61)、行事・展示会に対する来場者の満足度(指標62)ともに、概ね満足と評価されている。

このことから、来館者からは一定の評価を得ていると考えている。

※3 「都立図書館利用実態・満足度調査」で算出している数値。「平成24年度利用実態満足度調査」は平成25年1月16、20、21日の3日間にわたり、都立図書館の来館者を対象に実施した。

表中の重要度とは、設問「あなたにとって、対象の事業がどのくらい重要ですか」に対する回答であり、とても重要5、重要4、どちらともいえない3、あまり重要ではない2、重要ではない1 で有効回答者の平均値を算出したもの。その事業が回答者にとって重要と感じられるほど高い数値となる。

満足度については、「あなたにとって、対象の事業がどのくらい満足ですか」に対する回答であり、とても満足5、満足4、どちらともいえない3、やや不満足2、不満足1 で有効回答者の平均値を算出したもの。その事業が回答者にとって満足と感じられるほど高い数値となる。

II 重点事業の評価

1 ビジネス情報サービス

1 事業概要

特に注力すべきターゲット	1 ビジネスの現場で、自身で資料入手や調査をしなければならない、事務職、営業・販売職、技術職等の会社員や個人事業者 2 就職先を探している人 3 起業したい人
目的	東京の中小企業や個人企業、都民一人ひとりの経済活動を資料や情報提供の面から支援し、都市・東京を活性化させる。（「都立図書館改革の具体的方策」）
概要	中央図書館に、企業・業界情報、就職活動関係の資料及びオンラインデータベース等を配置した「ビジネス情報コーナー」を設置。他機関と連携した講演会やセミナーなどのほか、区市町村立図書館への研修、ホームページによる情報発信を行う。

2 平成24年度の取組（ビジネス情報サービス）

1 資料収集と配架の工夫

(1) 専門的なビジネス情報資料の重点的収集

都民や企業・団体の課題解決や調査研究に寄与するため、ビジネス情報資料（企業・経営、金融、商業、マーケティング等）約 3,500 冊を収集した。そのうち、利用者のニーズが高く、専門的なビジネス情報を得る上で不可欠な市場動向調査やマーケティングデータ集を重点的に収集した。

(2) ビジネス情報コーナーの充実

ア コーナーの更なる充実を目指し、「企業・業界情報リスト」(注1)の改定を行い、そのリストに合わせて企業・業界資料の更新を行った。業種が一目で分かるように、業界別に大見出し、小見出しを付け、細分化した。

(注1) 都立図書館で収集している資料のうち、会社情報や業界情報、マーケティング情報など図書館の利用者がビジネス情報を得るために参考になるとと思われるものをまとめたリスト

イ (ビジネス情報コーナーにある)「仕事・資格」コーナーでは、分類にとらわれず、広く都立図書館の全蔵書の中から資格に関する資料を集中的に配架し、利便性の向上を図った。

(3) 外部専門家による蔵書評価の実施（来館調査 2月7日、評価結果説明会 3月7日）

菊池健司氏（日本能率協会総合研究所マーケティング・データ・バンク室長）によるビジネス情報資料についての蔵書評価を行い、評価結果の説明会を開催した。主な指摘、アドバイス内容は以下のとおり。

ア 業界における情報源は概ね網羅されている。

イ 成長産業に関する分類を明確にし、成長分野・注目分野を分類上で見せていく必要がある。

ウ 都立図書館注目の「新ビジネス・新サービス」のような棚を設けるともっと注目されるのではないか。

エ 市場調査資料として定期的に収集すべき刊行物や、都立図書館の蔵書にないもので、有用と思われる資料、今後ニーズが高まると予想される資料等についての紹介

オ 注目市場の俯瞰型調査資料や特定業界ごとの調査資料など、ビジネス支援に役立つ資料を収集すべき

2 サービス関連

(1) サービス活用促進のための取組

ア ホームページの「ビジネス情報サービスページ」について、「ビジネス企業・業界情報リスト」「業種別・業界リスト」等を最新のものに更新し、注目されている業界、企業情報を反映させた。

イ 「TSR 企業情報」等のビジネス関連データベースの検索講習会を計6回開催した。(参加者計26名) 来館者が気軽に参加できるよう、1回15分程度で実施している。

ウ 「保険ビジネス」、「葬儀ビジネス」、「ブライダルビジネス」等をテーマとするミニ展示を6回実施した。日常的に利用者からの質問が多く、かつ当館の資料の豊富さをアピールできるテーマを設定した。

(2) 都民の経済活動を支援する取組(講演会、相談会等)

ア 就職活動セミナーの開催 (2回、参加者計139名)

テーマ「自分にピッタリの企業を探そうー図書館の情報資料を使いこなすコツを伝授します！」

講師 金順玉氏(中小企業診断士 ri-zuコンサルティング代表)

(8月27日 参加者69名、1月24日 参加者70名)

(公財)東京しごと財団との共催で、若年層を対象とした就職活動セミナーを年2回開催した。

イ ビジネス 起業・創業相談会の開催(年8回開催、募集人数各回8名、参加者計58名)

(公財)東京都中小企業振興公社、(社)中小企業診断協会との連携協力により実施した。

豊富な資料を使いながら、参加者それぞれの相談内容(例 食品製造・販売業、不動産鑑定業、Web販売等)に対応した。

3 その他

都内区市町村立図書館職員対象ビジネスレファレンス研修 (11月1日 参加者30名)

ビジネス関連で質問の多い事項を演習問題とし、回答を導くまでの調査プロセスと、調査に必要な資料やデータベースを紹介しながら講義した。

3 指 標（ビジネス情報サービスの各種データ）

指標名		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	
イン プ ット	① 受入冊数	—	—	3,519 冊	3,529 冊	
	② 開架冊数	—	—	5,070 冊	5,511 冊	
	③ 行事・展示会開 催回数	検索講習会	—	10 回	7 回	6 回
		講演会	—	2 回	2 回	2 回
		相談会	—	16 回	8 回	8 回
		展示	—	6 回	6 回	6 回
	④ 職員研修(館内・ 派遣)回数及び 受講者数	館内研修	— 回 — 人	2 回 58 人	1 回 37 人	1 回 30 人
		派遣研修	1 回 2 人	1 回 3 人	1 回 1 人	3 回 3 人
⑤ 区市町村立図書館等支援事業数	2 事業	1 事業	1 事業	1 事業		
ア ウ ト プ ット	⑥ 重点情報コーナー入室者数	875 人/日	888 人/日	870 人/日	854 人/日	
	⑦ レファレンス件数	—	—	1,914 件	1,757 件	
	⑧ ホームページアクセス数(ビジネス情報サービス)	—	—	10,095 アクセス	12,232 アクセス	
	⑨ 行事・展示会等 参加者数	検索講習会	—	50 人	20 人	26 人
		講演会	—	180 人	157 人	139 人
		相談会	—	57 人	61 人	58 人
展示		—	—	—	—	
⑩ 区市町村立図書館等支援事業参加者数	46 人	30 人	32 人	30 人		
ア ウ ト カ ム	⑪ 重要度(来館者)	3.99 点 (標本数 156)	3.95 点 (標本数 155)	3.79 点 (標本数 140)	4.03 点 (標本数 133)	
	⑫ 満足度(来館者)	3.57 点 (標本数 156)	3.55 点 (標本数 155)	3.44 点 (標本数 140)	3.76 点 (標本数 127)	
	⑬ 満足度(講演会等参加者)	—	4.30 点 (回答数 174)	4.41 点 (回答数 200)	4.30 点 (回答数 117)	
	⑭ マスコミ露出度	—	3 回	4 回	1 回	

※ 表中の—は、当該年度が評価対象でなかったため、数値未取得の項目

※⑥ 実人数ではなく、コーナー入口のカウンタで計測した延べ人数

※⑪ アウトカム⑪は「利用実態・満足度調査」の結果に基づくもの。「利用実態・満足度調査」は、平成 25 年 1 月 16、20、21 日の 3 日間にわたり、都立中央図書館の来館者を対象に実施したアンケート調査。表中の重要度とは、設問「あなたにとって、この図書館のビジネス情報サービスはどのくらい重要ですか」に対する回答であり、「とても重要 5、重要 4、どちらともいえない 3、あまり重要ではない 2、重要ではない 1」とし、有効回答の平均値を算出したもの。

※⑫ アウトカム⑫は、⑪と同様「利用実態・満足度調査」の結果に基づくもの。設問「あなたにとって、ビジネス情報サービスにどのくらい満足していますか」に対する回答であり、「とても満足 5、満足 4、どちらともいえない 3、やや不満 2、不満 1」とし、有効回答の平均値を算出したもの。

※⑬ アウトカム⑬は、講演会参加者から取得したアンケート回答による。数値は⑫と同様で、有効回答の平均値を算出したもの。

※⑭ アウトカム⑭は、ビジネス情報サービスに関連する事業が新聞、テレビ、ラジオで取り上げられた回数

4 事業評価（ビジネス情報サービス）

1 資料収集と配架の工夫

ビジネス情報に関する資料の収集については、コーナーに利用者ニーズが高いと思われる資料を重点的に収集し、利用者の利便性を高めることができたと考えている。今後も、ニーズが高まると予想される資料等の収集を行うとともに、成長産業に関する資料の見せ方など、さらに工夫の余地がある。（根拠は以下(1)～(4)）

また、コーナー以外に配架されているビジネス情報について、案内板等を表示しているものの、まだ十分に活用されていない可能性がある。（根拠は以下(5)）

（評価理由）

- (1) 市場動向調査やマーケティングデータ集など、一般の流通経路を経ないものも含めて幅広く重点的に収集し、これらの豊富な資料をオンラインデータベースと併せて1階入り口付近に集中的に配置したこと。
- (2) 資料について、外部専門家より「業界における情報源は概ね網羅されている」との評価を受けたこと。
- (3) 「利用実態・満足度調査」において、重要度、満足度いずれも概ね重要、または満足と評価されたこと。
- (4) 外部専門家の蔵書評価において、さまざまな指摘・アドバイスをいただいたこと。
- (5) 「利用実態・満足度調査」において、一部の回答者から「資料が少ない」との意見があったこと。

2 サービス関連

検索講習会や就職活動セミナーなど、資料やデータベースを活用した各種の取組を行い、効果的なサービスを行うことができたと考えている。（根拠は以下(1)）

なお、レファレンス件数が昨年度比で減少しているが（アウトプット⑦）、これはホームページのビジネス情報サービスへの年間アクセス件数が大幅に超えたことなどから（アウトプット⑧）、自ら情報を入手する利用者が増えたことが主要因と考えられる。（根拠は以下(2)）

（評価理由）

- (1) 検索講習会、講演会等いずれも例年並みの参加者が確保でき、参加者の満足度も4以上と高いこと。
- (2) 平成24年度におけるホームページのビジネス情報サービスへのアクセス件数が12,232件と、前年度の10,095件を20%以上も上回ったこと。

3 その他

都内区市町村立図書館職員対象に開催したビジネスレファレンス研修には、例年並みの参加（30名）があり、参加者のビジネスレファレンス能力の向上に寄与することができたものとする。（根拠は以下(1)）

ただし、研修内容については、参加者レベルや能力に応じ、より充実させていく必要がある。（根拠は以下(2)）

（評価理由）

- (1) 研修参加者へのアンケートで、参加者の9割から「参考になった・役に立ちそう」と回答されたこと。
- (2) 上記アンケートで、演習問題の難易度について、5割の参加者から「難しかった」と回答されたこと。

< まとめ >

総じて、ビジネス情報に関する資料の収集については、利用者の利便性を高めることができたものとするが、コーナー以外に配架されているビジネス情報への効果的な誘導が課題である。

また、検索講習会や就職活動セミナーなど効果的なサービスを行うことができたが、レファレンス件数が昨年度比で減少していることについて、別途分析が必要である。

都内区市町村立図書館職員に対するビジネスレファレンス研修では、参加者のビジネスレファレンス能力の向上に役立つものと考えている。

5 平成25年度の取組（ビジネス情報サービス）

※8月末、12月末、3月末時点の取組状況を以下に記載しています。

<p>取組 (8月末現在)</p>	<p>1 効果的な案内表示の設置</p> <p>2階にビジネス関係資料があることをより分かりやすくするため、利用者の動線に配慮した効果的な案内表示の方法を検討しているが、その検討結果を踏まえ10月までに設置する。</p> <p>2 レファレンス件数の減少への対応</p> <p>レファレンスについては、日常的にレファレンス案件や対応内容等の分析を行っているが、併せて年内に実施する「利用実態・満足度調査」の中で調査を行い、その集計結果を基に平成26年2月末までに様々な角度から分析し、結果を取りまとめ、翌年度の事業計画に反映させる。</p> <p>3 その他の取組</p> <p>蔵書評価の際に得た推奨資料については、資料リストに基づきほぼ発注済みである。</p> <p>1階ビジネスコーナーでは、ビジネス関連の基本資料を経済動向や話題分野などを考慮しながら時宜に応じて継続的に展示するとともに、就職活動セミナー「自分にピッタリの企業を探そう！」(8月24日に実施)のテーマに合わせた展示を行った。</p> <p>区市町村立図書館向けビジネスレファレンス研修については、当館職員が講師となり、資料リストに解題を付与するなど、より実務に役立つ内容で9月5日に中央図書館で実施する。</p>
-----------------------	--

<p>取組 (12月末現在)</p>	<p>1 効果的な案内表示の設置</p> <p>1階ビジネスコーナーの利用者を2階の社会科学系関連資料（個別の製造業、統計・白書、各種年鑑類）に的確に誘導するため、利用者の動線、視野、デザイン、安全性など多様な角度から検討を進めた。その結果をもとに案内表示を作成中である。</p> <p>2 レファレンス件数の減少への対応</p> <p>一般都民の方にレファレンスのイメージを持っていただきやすいような事例、誰でも聞いてみたくなるような事例をホームページやtwitterを活用して広報する。</p> <p>3 その他の取組</p> <p>(1) 蔵書評価で推奨された資料について、リストに基づき可能な資料を購入した。</p> <p>(2) 話題の分野やセミナーのテーマに併せ、以下のコーナー展示を行った。</p> <p>「美容ビジネス」(7月5日から9月4日)</p> <p>「いまどきの就活術」(9月6日から11月6日)</p> <p>「“クルマ”に関するビジネス」(11月8日から1月8日)</p> <p>(3) 都内区市町村立図書館職員対象ビジネスレファレンス研修を以下の内容で実施した。</p>
------------------------	--

	<p>日時 9月5日（木）13時10分～17時</p> <p>講義 「ビジネス情報」の探し方</p> <p>内容 レファレンスにおける調査のプロセスについて、都立図書館で多い事例を基に講義及び演習を行った。併せて、調査に特に有効な資料やデータベースについて、内容や利用方法を説明した。</p> <p>参加人数 33名（33自治体/62自治体）</p> <p>(4) その他</p> <p>ビジネス 起業・創業相談会を以下の通り実施した。</p> <p>9月28日（土）13時～17時 参加者7名</p> <p>10月26日（土）13時～17時 参加者8名</p> <p>11月30日（土）13時～17時 参加者8名 ※定員は各回8名</p>
--	--

<p>取組 (3月末現在)</p>	<p>1 効果的な案内表示の設置</p> <p>2階にビジネス関係資料があることをより分かりやすくするため、利用者の動線に配慮した据置き型の案内表示を1階ビジネスコーナー付近に設置した。</p> <p>2 レファレンス件数の減少への対応</p> <p>一般都民の方にレファレンスのイメージを持っていただきやすいような事例等をホームページやtwitterを活用して広報するとともに、イベント等でレファレンスサービスの利用方法をPRした。</p> <p>3 その他の取組</p> <p>(1) 蔵書評価で推奨された資料について、発注分については、すべて納品が完了した。推奨された発行元については、ホームページ等により定期的に新刊の発行状況を確認している。</p> <p>(2) 話題の分野やセミナーのテーマに併せ、以下のコーナー展示を行った。 「農業に関するビジネスあれこれ」（1月10日から3月5日） 「これからの成長産業 医療&介護ビジネス」（3月7日から5月7日）</p> <p>(4) その他</p> <p>公益財団法人 東京しごと財団と共催で第2回就職活動セミナー「自分にピッタリの企業を探そう！」を以下の通り実施した。</p> <p>1月18日（土）14時～16時30分 参加者74名</p>
------------------------------	---

2 法律情報サービス

1 事業概要

特に注力すべきターゲット	1 生活上や仕事上で法律情報を調べたい人 2 不動産や消費者問題などについて法的トラブルを抱える人 3 法律専門職等を目指し法律を勉強している人
目的	裁判所や弁護士団体等、法律に関係する外部専門機関と連携しながら、資料や情報を分かりやすく提供するとともに、法律情報の調べ方や裁判員制度等についての資料や情報を提供し、都民の「学び」を支援する。(都立図書館改革の具体的方策)
概要	都立中央図書館に、法律の解説書・専門書、判例集等の資料及びオンラインデータベース等を配置した「法律情報コーナー」を設置。他機関との共催で講演会やセミナーなどを実施するほか、区市町村立図書館への研修、ホームページによる情報発信を行う。

2 平成24年度の取組（法律情報サービス）

1 資料収集と配架の工夫

(1) 法律情報資料の重点的収集

都民の課題解決や調査研究に寄与するため、法律情報サービス資料(法令、法律及びその解説書等)約1,500冊を重点的に収集・整理した。法律改正に対応した最新版、基本的資料の改訂版は積極的に収集するとともに、一般都民の暮らしの中のトラブル解決に役立つ実用の収集にも留意した。

(2) 法律情報コーナーの充実

「身近な法律コーナー」の資料について、相続など法律が改正された分野の資料を充実させ内容を刷新した。

2 サービス関連

(1) サービス活用促進のための取組

ア ホームページの「法律情報サービスページ」について、法令や判例の調べ方案内等を更新した。

イ 法令や判例等の検索を行う法律関連オンラインデータベース検索講習会を7回実施した。

(参加者計27名)来館者が気軽に参加できるよう1回15分で実施し、簡潔で分かりやすい内容とした。

ウ 法律情報コーナー配布用ブックリストの内容を更新した。

エ 「裁判員裁判」「遺言書を書いてみよう!」「シニアの法律」等をテーマとするミニ展示を6回実施した。

日常的に利用者からの質問が多く、かつ当館の資料の豊富さをアピールできるテーマを設定した。

(2) 都民の生活を支援する取組(講演会、相談会等)

ア 法律情報サービス講演会「だまされないぞ! — 悪徳商法から身を守るために —」の開催

(9月30日 参加者25名 ※悪天候のため当日欠席が多かった)

講師 大野鉄平氏(日本司法支援センター東京地方事務所 弁護士)

日本司法支援センター東京地方事務所との共催で、「法の日」(10月1日)を記念して講演会を実施した。

イ 無料法律相談会の開催(3回、参加者計70名)

都民の身近な法律問題の解決を支援するため、日本司法支援センター東京地方事務所や東京司法書士会との共催で、弁護士や司法書士による法律相談会を実施した。

3 その他

都内区市町村立図書館職員対象の法律レファレンス研修の開催(8月2日 参加者35名)

法律情報関連で質問の多い事項を演習問題とし、回答を導くまでの調査プロセスと、調査に必要な資料やデータベースを紹介しながら講義した。

3 指 標（法律情報サービスの各種データ）

指標名		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	
イン プ ット	受入冊数①	—	—	1,610 冊	1,466 冊	
	開架冊数②	—	—	9,598 冊	10,233 冊	
	行事・展示会開 催回数③	検索講習会	—	6 回	6 回	7 回
		講演会	—	2 回	2 回	1 回
		相談会	—	3 回	3 回	3 回
		展示	—	5 回	5 回	6 回
	職員研修(館内・ 派遣)回数及び 受講者数④	館内研修	一回 一人	1 回 28 人	1 回 28 人	1 回 34 人
		派遣研修	2 回 2 人	1 回 1 人	1 回 1 人	1 回 3 人
区市町村立図書館等支援事業数 ⑤	3 事業	2 事業	1 事業	1 事業		
ア ウ ト プ ット	重点情報コーナー入室者数⑥※	875 人/日	888 人/日	870 人/日	854 人/日	
	レファレンス件数⑦	—	—	1,377 件	1,762 件	
	ホームページアクセス数(法律情報サービス) ⑧	—	—	5,398 アクセス	4,356 アクセス	
	行事・展示会等 参加者数⑨	検索講習会	—	12 人	12 人	27 人
		講演会	—	121 人	121 人	25 人
		相談会	—	62 人	62 人	70 人
展示		—	—	—	—	
区市町村立図書館等支援事業参加者数 ⑩	77 人	33 人	31 人	35 人		
ア ウ ト カ ム	重要度(来館者)⑪ ※	4.05 点 (標本数 74)	3.93 点 (標本数 80)	4.00 点 (標本数 68)	3.93 点 (標本数 69)	
	満足度(来館者)⑫ ※	3.81 点 (標本数 74)	3.78 点 (標本数 80)	3.67 点 (標本数 68)	3.78 点 (標本数 68)	
	満足度(講演会等参加者)⑬ ※	—	4.35 点 (回答数 21)	3.58 点 (回答数 95)	3.40 点 (回答数 22)	
	マスコミ露出度⑭ ※	—	3 回	4 回	3 回	

※ 表中の—は、当該年度が評価対象でなかったため、数値未取得の項目

※⑥ 実人数ではなく、コーナー入口のカウンタで計測した延べ人数

※⑪ アウトカム⑪は「利用実態・満足度調査」の結果に基づくもの。「利用実態・満足度調査」は、平成 25 年 1 月 16、20、21 日の 3 日間にわたり、都立中央図書館の来館者を対象に実施したアンケート調査。表中の重要度とは、設問「あなたにとって、この図書館の法律情報サービスはどのくらい重要ですか」に対する回答であり、「とても重要 5、重要 4、どちらともいえない 3、あまり重要ではない 2、重要ではない 1」とし、有効回答の平均値を算出したもの。

※⑫ アウトカム⑫は、⑪と同様「利用実態・満足度調査」の結果に基づくもの。設問「あなたにとって、法律情報サービスにどのくらい満足していますか」に対する回答であり、「とても満足 5、満足 4、どちらともいえない 3、やや不満 2、不満 1」とし、有効回答の平均値を算出したもの。

※⑬ アウトカム⑬は、講演会参加者から取得したアンケート回答による。数値は⑫と同様で、有効回答の平均値を算出したもの。

※⑭ アウトカム⑭は、法律情報サービスに関連する事業が新聞、テレビ、ラジオで取り上げられた回数

4 事業評価（法律情報サービス）

1 資料収集と配架の工夫

法律情報に関する資料の収集については、受入冊数が前年度比でやや減少したものの（インプット①）、コーナーに利用者ニーズの高いと思われる資料を重点的に収集し、利用者の利便性を高めることができたと考えている。（根拠は以下(1)(2)）

また、1階の法律情報コーナーでは比較的身近な法律（消費者問題や家族問題など）を集めており、2階の関連資料については、案内板等を表示しているものの、まだ十分に活用されていない可能性がある。（根拠は以下(3)）（評価理由）

- (1) 専門書、研究書の最新版や改訂版の収集に力点を置きつつ、身近な暮らしの課題解決のための実用書等も併せて幅広く収集し、これらの豊富な資料をオンラインデータベースと併せて1階に集中的に配置したこと。
- (2) 「利用実態・満足度調査」において、法律情報サービスについての重要度、満足度は、いずれも概ね重要、または満足と評価されたこと。（アウトカム⑪⑫）
- (3) 「利用実態・満足度調査」において、法律情報サービスに不満足な理由として「内容に偏りがある」との意見があったこと。

2 サービス関連

検索講習会や無料法律相談会など、資料やデータベースを活用した各種の取組を行い、全体として効果的なサービスを行うことができたと考えている。（根拠は以下(1)(2)）また、レファレンス件数が前年度から大幅に増加し、利用者の要望に応じたきめ細かいサービスを展開することができた。（根拠は以下(3)）

一方で、講演会については、回数を1回に減らしたこと、悪天候の影響もあったが、参加者が大幅に減少し、参加者の満足度も低下した。今後、有効な対策が必要と考えられる。（根拠は以下(4)）

（評価理由）

- (1) 「利用実態・満足度調査」において、重要度、満足度いずれも概ね重要、または満足と評価されたこと。（アウトカム⑪⑫）
- (2) オンラインデータベース検索講習会、無料法律相談会いずれも参加者数が着実に増加していること。（アウトプット⑨）
- (3) 平成24年度のレファレンス件数は1,762件と、前年度の1,377件を大幅に上回ったこと。（アウトプット⑦）
- (4) 講演会への参加者数が減少し、参加者の満足度も低下していること。（アウトプット⑨、アウトカム⑬）

3 その他

都内区市町村立図書館職員対象に開催した法律レファレンス研修には、例年並みの参加（35名）があり、参加者の法律レファレンス能力の向上に寄与することができたものとする。（根拠は以下(2)）

（評価理由）

- (1) 研修参加者アンケートで講義の内容について「役に立ちそう」「参考になった」との回答が100%であったこと。
- (2) 上記アンケートで、演習問題の難易度について参加者の約6割から「ちょうどよかった」と回答された。

< まとめ >

総じて、法律情報に関する資料の収集については、利用者の利便性を高めることができたものとするが、コーナー以外に配架されている法律情報資料への効果的な誘導が課題である。

また、検索講習会や無料法律相談会など効果的なサービスを行うことができたが、法律情報サービス講演会の実施内容や開催日時等について、ニーズに対応した実施が必要である。都内区市町村立図書館職員に対する法律情報レファレンス研修では、参加者のレファレンス能力の向上に役立つものと考えている。

5 平成25年度の取組（法律情報サービス）

※8月末、12月末、3月末時点の取組状況を以下に記載しています。

<p>取組 (8月末現在)</p>	<p>1 効果的な案内表示の設置</p> <p>2階に法律関係資料があることをより分かりやすくするため、利用者の動線に配慮した効果的な案内表示の方法を検討しているが、その検討結果を踏まえ10月までに設置する。</p> <p>2 法律情報サービス講演会の充実</p> <p>法律情報サービス講演会については、平成27年1月から税制が改正されるのに伴い、相続税の課税対象が広がることから、タイムリーで都民の関心が高い「相続を賢く円満に」をテーマに日本司法支援センター東京地方事務所との共催で9月26日に実施する。</p> <p>また、終了後はアンケート結果を踏まえ内容等の検討を行い、次年度の事業計画に反映させる。</p> <p>3 その他の取組</p> <p>社会情勢や法改正の動向に注意し、法律情報サービスに関する資料の一層の充実に向けて資料収集に取り組んでいる。</p>
------------------------------	---

<p>取組 (12月末現在)</p>	<p>1 効果的な案内表示の設置</p> <p>1階法律情報コーナーの利用者に2階の社会科学系関連資料フロア（主題を持つ六法、法令集、通達集）について、随所に図面を立てて案内する。</p> <p>2 法律情報サービス講演会の充実</p> <p>以下のとおり、法律情報サービス講演会を開催し、多くの都民に参加していただいた。</p> <p>日時 平成25年9月26日（木）14時～16時</p> <p>テーマ 「相続を賢く円満に」</p> <p>内容 法テラス東京副所長の亀井時子氏を講師に、相続を円満に進める方法や遺言の書き方のコツなどについて、具体的な事例を挙げながらわかりやすくお話ししていただいた。</p> <p>参加人数 91名</p> <p>3 その他の取組</p> <p>『法律図書総目録』等、法律関係の目録を網羅的に調査し、購入すべき資料を収集し、蔵書の充実に努めている。</p>
-------------------------------	--

取組
(3月末現在)

1 効果的な案内表示の設置

2階に法律関係資料があることをより分かりやすく案内するため、代本板の設置や法律情報サービス案内を随所に配置した。

2 法律情報サービス講演会の充実

講演会について、都民の課題を踏まえた内容とするため平成26年度のテーマ選定等を進めている。

3 その他の取組

社会情勢や法改正の動向に注意し、法律情報サービスに関する資料の一層の充実に向けて継続的に資料収集に取り組んだ。

3 健康・医療情報サービス

1 事業概要

特に注力すべきターゲット	1 自分自身または関係者の健康に不安を抱え、医療に関する情報を求めている人 2 看護師・介護福祉士などの医療・福祉関係者 3 看護・介護等の勉強をしている人（看護学校生などを含む）
目的	健康・医療情報、関連情報を分かりやすく提供するとともに、健康・医療情報の調べ方や、健康づくりの資料・情報を提供し、都民の健康づくりを支援する。（都立図書館改革の具体的方策）
概要	都立中央図書館に、健康、薬、病気など基本的な事典類、統計書、医学関連図書・雑誌及びオンラインデータベース等を配置した「健康・医療情報コーナー」を設置。他機関と連携した講演会やセミナーなどのほか、区市町村立図書館への研修、ホームページによる情報発信を行う。

2 平成24年度の取組（健康・医療情報サービス）

1 資料収集と配架の工夫

(1) 健康・医療情報サービスの重点的収集

都民の課題解決や調査研究に寄与するため、健康・医療情報サービス資料(医学、医療部門全般)約 2,500 冊を重点的に収集した。最新情報が重要な分野であることから、改訂版や最新版の刊行情報に留意して収集を進めた。

また、特色あるコレクションである「闘病記文庫」について、闘病の生活記録、日記、手紙などの資料で、病名、闘病や看護の経過が具体的、客観的に書かれているものを積極的に収集した。

(2) 健康・医療情報コーナーの充実

診療の「ガイドライン」に関する資料の配架基準を策定し、利用者が求める資料に的確に誘導できるようにした。

2 サービス関連

(1) サービス活用促進のための取組

ア ホームページの「健康・医療情報サービスページ」について、「健康・医療情報ブックリスト」、「闘病記文庫リスト」等を更新した。

イ 医中誌Web、CiNii、JDream II など医学関連オンラインデータベース検索講習会を計7回開催した。

（参加者計33名）来館者が気軽に参加できるよう、1回15分程度で実施している。

ウ 「歯と健康」、「熱中症・夏バテを予防する」、「インフルエンザ対策」等、健康をテーマとするミニ展示を7回実施した。

エ 東京都教育委員会等主催「健康づくりフォーラム」へ参加し、資料展示を行った。(12月20日)

(2) 都民の健康づくりを支援する取組(講演会、相談会等)

ア 公開講座の開催

(ア) 「歯が健康を守るー飲み物で歯が溶ける!?!ー」(6月2日 参加者 98名)

講師 北迫勇一氏(東京医科歯科大学大学院う蝕制御学分野 助教)

飲み物で歯が溶ける酸蝕歯や高齢者の口腔ケアについて、専門家による講演会を実施した。

(イ)「今日から始めるアンチエイジング」(12月1日 参加者93名)

講師 ダニエラ・シガ氏(順天堂大学大学院 加齢制御医学講座 協力研究員)

老化予防や、抗加齢・美容に効果的な食材、調理法(レシピ)について、専門家による講演会を実施した。

イ 健康相談会の開催(3回開催、参加者計111名)

(公益社団法人)東京都看護協会の協力により、血圧測定、体脂肪計測などの検査を行い、検査結果をもとにその場で看護師からアドバイスを受けられる健康相談会を実施した。また、会場でアンチエイジングや食と健康などの健康・医療に関する情報提供を行うミニ展示を行った。

3 その他

ア 区市町村立図書館職員対象健康・医療情報レファレンス研修(9月6日 参加者33名)

健康・医療関連で質問の多い事項を演習問題とし、回答を導くための調査プロセスと、調査に必要な資料やデータベースを紹介しながら講義した。

イ 荒川区立図書館職員対象の健康・医療情報レファレンス研修実施(11月29日 参加者12名)

区立図書館側の要望により、特に実施した。内容はアとほぼ同等

3 指 標（健康・医療情報サービスの各種データ）

指標名		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	
インプット	受入冊数①	—	—	2,972 冊	2,518 冊	
	開架冊数②	—	—	15,079 冊	17,322 冊	
	行事・展示会開催回数③	検索講習会	—	10 回	6 回	7 回
		講演会	—	2 回	2 回	2 回
		相談会	—	2 回	3 回	3 回
		展示	—	5 回	6 回	6 回
	職員研修(館内・派遣)回数及び受講者数④	館内研修	1 回 23 人	1 回 23 人	1 回 29 人	1 回 31 人
		派遣研修	1 回 1 人	1 回 1 人	2 回 2 人	2 回 3 人
区市町村立図書館等支援事業数⑤	1 事業	1 事業	1 事業	2 事業		
アウトプット	重点情報コーナー入室者数⑥※	875 人/日	888 人/日	870 人/日	854 人/日	
	レファレンス件数⑦	—	—	1,592 件	1,573 件	
	ホームページアクセス数(法律情報サービス)⑧	—	—	5,732 アクセス	5,078 アクセス	
	行事・展示会等参加者数⑨	検索講習会	—	34 人	16 人	33 人
		講演会	—	179 人	186 人	191 人
		相談会	—	102 人	102 人	111 人
展示		—	—	—	—	
区市町村立図書館等支援事業参加者数⑩	104 人	36 人	30 人	47 人		
アウトカム	重要度(来館者)⑪※	4.10 点 (標本数 131)	3.94 点 (標本数 138)	4.00 点 (標本数 108)	3.94 点 (標本数 100)	
	満足度(来館者)⑫※	3.75 点 (標本数 131)	3.71 点 (標本数 138)	3.64 点 (標本数 108)	3.71 点 (標本数 99)	
	満足度(講演会等参加者)⑬※	—	4.06 点 (回答数 146)	4.05 点 (回答数 151)	4.31 点 (回答数 156)	
	マスコミ露出度⑭※	—	2 回	2 回	4 回	

※ 表中の—は、当該年度が評価対象でなかったため、数値未取得の項目

※⑥ 実人数ではなく、コーナー入口のカウンタで計測した延べ人数

※⑪ アウトカム⑪は「利用実態・満足度調査」の結果に基づくもの。「利用実態・満足度調査」は、平成 25 年 1 月 16、20、21 日の 3 日間にわたり、都立中央図書館の来館者を対象に実施したアンケート調査。表中の重要度とは、設問「あなたにとって、この図書館の健康・医療情報サービスはどのくらい重要ですか」に対する回答であり、「とても重要 5、重要 4、どちらともいえない 3、あまり重要ではない 2、重要ではない 1」とし、有効回答の平均値を算出したもの。

※⑫ アウトカム⑫は、⑪と同様「利用実態・満足度調査」の結果に基づくもの。設問「あなたにとって、健康・医療情報サービスにどのくらい満足していますか」に対する回答であり、「とても満足 5、満足 4、どちらともいえない 3、やや不満 2、不満 1」とし、有効回答の平均値を算出したもの。

※⑬ アウトカム⑬は、講演会参加者から取得したアンケート回答による。数値は⑫と同様で、有効回答の平均値を算出したもの。

※⑭ アウトカム⑭は、健康・医療情報サービスに関連する事業が新聞、テレビ、ラジオで取り上げられた回数

4 事業評価（健康・医療情報サービス）

1 資料収集と配架の工夫

「健康・医療情報、関連情報を分かりやすく提供する」という当サービスの目的に沿った資料収集と配架の工夫ができたと考えている（根拠は以下(1)～(2)）

今後は、ビジネス情報サービスのように外部専門家による蔵書評価を行い、その評価結果を踏まえた、より質の高い資料収集や配架の工夫が課題である。（根拠は以下(3)）

（評価理由）

- (1) 専門書に力点を置きつつ、一般読者の健康に関する疑問や不安の解決となるような実用書、解説書等も広く収集し、これらの豊富な資料をオンラインデータベースと併せて1階コーナーに集中的かつ効果的に配置したこと。
- (2) 「利用実態・満足度調査」において、健康・医療情報サービスについての重要度、満足度はいずれも概ね重要、または満足（アウトカム⑩⑪）と評価されたこと。
- (3) 健康・医療情報サービスについては、外部専門家による蔵書評価を実施していないこと。

2 サービス関連

公開講座や健康相談会等の実施により、都民の健康づくりを支援するための多様な情報提供を効果的に実施することができたと考えている。（根拠は以下(1)～(3)）

講演会等については、より多くの都民が参加しやすい形で開催することも必要である。

（評価理由）

- (1) 検索講習会、講演会、相談会いずれも昨年度を上回る参加者を確保できていること（アウトプット⑨）
- (2) 講演会等参加者の満足度4.3は、過去3か年で最も高いこと。（アウトカム⑬）
- (3) 当サービスの重要度（アウトカム⑩）、満足度（アウトカム⑪）は概ね「重要」「満足」と回答されたこと。

3 その他

都内区市町村立図書館職員対象に開催した健康・医療情報レファレンス研修には、例年並みの参加（35名）があり、参加者のニーズに見合った研修を実施することができたものと考えている。（根拠は以下(1)(2)）

（評価理由）

- (1) 研修参加者へのアンケートで、参加者の10割から「参考になった・役に立ちそう」と回答されたこと。
- (2) 研修参加者へのアンケートで、演習問題の解説について参加者の7割から「わかりやすかった」と回答されたこと。

< まとめ >

総じて健康・医療情報に関する資料の収集については、利用者の利便性を高めることができたと考えているが、今後さらに、外部専門家による蔵書評価に基づく資料収集や配架の工夫を行う必要がある。

講演会では概ね効果的なサービスを行うことができたが、依然として都民の健康に対する関心が高いと考えられ、サービスの一層の向上が必要である。

都内区市町村立図書館職員に対する健康・医療情報レファレンス研修では、参加者のレファレンス能力の向上に寄与したものと考えている。

5 平成25年度の取組（健康・医療情報サービス）

※8月末、12月末、3月末時点の取組状況を以下に記載しています。

取組 (8月末現在)	<p>1 外部専門家による蔵書評価</p> <p>外部専門家による蔵書評価を実施する。評価内容の検討および評価者の人選の上、年内に実施する。評価結果は3月中に取りまとめ、翌年度の資料収集に反映し、一層の資料の充実を図る。</p> <p>2 講演会の実施</p> <p>より多くの参加が見込まれるようなテーマとし、内容の充実を図る。</p> <p>第1回 「知っていますか？乳がんのことー専門医が語る乳がんの話ー」10月6日 実施予定</p> <p>第2回 平成26年1月実施予定</p> <p>3 その他</p> <p>区市町村立図書館の職員向けの健康・医療情報レファレンス研修については、当館の職員が講師となり、昨年度のアンケート結果をもとにテキストの構成や演習問題を見直し、より実務に役立つ内容にして、8月1日（木）中央図書館で実施した。 (区14名、市町村17名、計31名)</p>
----------------------	---

取組 12月末現在	<p>1 外部専門家による蔵書評価</p> <p>2名の外部専門家を選定の上、事前に準備した質問票と来館調査による1回目の蔵書評価を12月3日（火）に実施、2回目については1月9日（木）を予定している。</p> <p>今後、外部専門家が作成した蔵書評価報告書を基に、3月6日（木）に蔵書評価報告会を実施する予定である。</p> <p>2 講演会の実施</p> <p>以下のとおり第1回健康・医療情報サービス公開講座を開催した。</p> <p>日時 10月6日（日）14時～16時</p> <p>テーマ 「知っていますか？乳がんのことー専門医が語る乳がんの話ー」</p> <p>内容 都立駒込病院副院長の黒井克昌氏を講師に、乳がんの概要や、最新の治療方法、緩和ケア等についてお話しいただいた。</p> <p>参加人数 53名</p> <p>第2回 「心すこやかに過ごすためにー精神科医からの読書のススメー」 平成26年1月11日(土) 東京都庁都民ホールで実施予定</p> <p>3 その他</p> <p>健康相談会「まちの保健室」を以下の通り実施した。</p> <p>10月12日(土) 14時～17時 参加者33名 ※定員は30名</p>
---------------------	---

取組

3月末現在

1 外部専門家による蔵書評価

外部専門家による蔵書評価報告会を3月6日（木）に実施し、健康・医療情報サービスの更なる充実に向け、推奨資料の紹介や、収集上の考え方のアドバイスを受けた。

評価結果に基づき、必要な資料について次年度速やかに収集する。

2 講演会の実施

以下のとおり第2回健康・医療情報サービス公開講座を開催した。

日 時 1月11日(土) 14時～16時

テーマ 「心すこやかに過ごすためにー精神科医からの読書のススメー」

内 容 現代人の閉塞感の原因について、若者世代の事例を中心に解説していただくとともに、心すこやかに過ごすために「物語」をはじめとする読書がどう役立つのか、お話しいただいた。

参加者 226名

3 その他

健康相談会「まちの保健室」を以下の通り実施した。

2月1日（土） 14時～16時 参加者 34名

※定員 30名

4 東京マガジンバンク

1 事業概要

特に注力すべきターゲット	1 放送・新聞・広告関連や文筆業など「情報発信のプロフェッショナル」 2 社会学、広告、マーケティング等を専攻する大学生
目的	時代状況を先鋭的に捉える速報性と時々の「時代」を生き生きと再現する記録性という雑誌ならではの有用性に着目して、幅広い分野の雑誌約 16,500 誌を揃え、身近な話題から世界的なニュース、専門的領域の動向まで、都民の様々な関心に応え、課題解決や調査研究を支援する。
概要	雑誌約 16,500 誌、5,200 誌の創刊号コレクションの閲覧のほか、雑誌の総目次・総索引情報、オンラインデータベース等を提供している。マガジンバンク利用の契機となるような展示会や講演会等のほか、区市町村立図書館への支援として「区市町村立図書館新聞雑誌総合目録」の更新等を行っている。

2 平成24年度の取組（東京マガジンバンク）

1 マガジンバンク用資料の収集

幅広いジャンルの雑誌の迅速、確実な収集とともに、平成 22 年度に設定した重点収集テーマ（女性誌、鉄道関係）の欠号補充及び創刊号の収集など、幅広く奥行きのあるコレクションとなるよう努めた。

併せて、マガジンバンクサービスに必要な雑誌研究書や基本的参考書の収集を行った。

2 サービス関連

(1) 資料の利用促進のための取組

ア 「東京マガジンバンク」講演会の開催（2 回、参加者計 884 名）

椎名誠氏講演会「世界で見てきた自然と人間」(6 月 3 日 参加 693 名)

松田哲夫氏講演会「書籍の明日、雑誌の明日」(10 月 14 日 参加 191 名)

イ 企画展示の開催(4回、参加者計 33,633 名)

「雑誌でめぐる多摩と鉄道」(9 月 7 日～11 月 5 日 来場 11,065 名)

「Just Married!新たな絆のスタートー女性誌に見る理想の結婚ー」(11 月 9 日～1 月 9 日 来場 10,885 名)

「雑誌を彩る 懐かしき銀幕のスターたちー邦画男優編ー」(1 月 11 日～3 月 6 日 来場 11,683 名)

「東北を旅しようー雑誌で誘う東北の旅ー」(3 月 8 日～5 月 1 日 来場 10,009 名)

これらと併せ、展示雑誌リストの作成を行った。

ウ バックヤードツアーの開催（一般ツアー10回、団体ツアー17回、参加者計 372 名）

一般コースのほか、雑誌に特化したテーマ別ツアー「マガジンコース」も実施した。

エ 映画フェスティバル「木下恵介」の実施（3 月 10 日 参加 510 名）

映画関係雑誌を展示した。

オ 広報活動

「東京マガジンバンク」広報パンフレットを活用し、バックヤードツアー参加者への説明や、大学等訪問時の広報に活用した。

(2) サービスの向上に向けた取組み

ア パスファインダー(ジャンル別雑誌紹介パンフレット)を作成・配布した。

イ オンラインデータベース検索セミナーを開催した。(11回 参加53名)

ウ 「創刊号コレクション」データをすべてOPACで検索できるようにした。

エ 「マガジンバンク」ホームページに、これまでの企画展示や講演会の情報を掲載、創刊号コレクションの表紙画像を追加など、内容の充実を図った。

オ 大量利用アンケートの実施(7月～12月)

雑誌利用ニーズの把握のため、インタビュー調査も併せたアンケートを実施した。

(3) 区市町村立図書館支援

「区市町村立図書館新聞・雑誌総合目録」の更新(8月)

区市町村立図書館との協力により、所蔵状況データを更新した。

3 指 標（東京マガジンバンクの各種データ）

指標名		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	
イン プ ット	所蔵雑誌タイトル数①	15,400 誌	15,999 誌	16,239 誌	16,515 誌	
	創刊号コレクション所蔵タイトル数②	3,047 誌	3,142 誌	4,907 誌	5,283 誌	
	雑誌受入タイトル数③	5,833 誌	6,191 誌	6,186 誌	5,974 誌	
	開架タイトル数④	600 誌	700 誌	534 誌	534 誌	
	行事・展覧会開 催回数⑤	検索講習会	—	11 回	10 回	11 回
		講演会	—	3 回	2 回	2 回
		企画展示	—	5 回	4 回	4 回
図書館ツアー		—	4 回	12 回	19 回	
大規模映画会等		—	1 回	2 回	2 回	
ア ウ ト プ ット	入館者数⑥	272 人/日	306 人/日	300 人/日	282 人/日	
	書庫出納冊数⑦	124,532 冊	136,480 冊	138,040 冊	143,166 冊	
	レファレンス件数⑧	1,124 件	5,056 件	4,286 件	4,625 件	
	ホームページアクセス数(東京マガジンバンク)⑨	—	—	6,630 アクセス	5,274 アクセス	
	行事・展覧会等 参加者数⑩	検索講習会	—	38 人	29 人	53 人
		講演会	—	668 人	923 人	884 人
		企画展示 ※	—	11,527 人	12,891 人	33,633 人
図書館ツアー		—	75 人	147 人	245 人	
大規模映画会		—	367 人	641 人	652 人	
ア ウ ト カ ム	重要度(来館者)⑪※	3.97 点 (標本数 197)	4.06 点 (標本数 200)	4.14 点 (標本数 210)	4.07 点 (標本数 270)	
	満足度(来館者)⑫※	3.94 点 (標本数 197)	3.88 点 (標本数 200)	4.01 点 (標本数 210)	4.00 点 (標本数 270)	
	満足度(展示・講演会等参加者)⑬※	—	4.35 点 (標本数 856)	4.34 点 (標本数 1,228)	4.39 点 (標本数 738)	
	マスコミ露出度⑭※	—	29 回	26 回	22 回	

※ 表中の—は、当該年度が評価対象でなかったため、数値未取得の項目

※⑩ 機械計測ではなく展示エリアそばのカウンターで目視計測した人数

※⑪ アウトカム⑪は「利用実態・満足度調査」の結果に基づくもの。「利用実態・満足度調査」は、平成 25 年 1 月 16、20、21 日の 3 日間にわたり、都立多摩図書館の来館者を対象に実施したアンケート調査。表中の重要度とは、設問「あなたにとって、多摩図書館のマガジンバンクはどのくらい重要ですか」に対する回答であり、「とても重要 5、重要 4、どちらともいえない 3、あまり重要ではない 2、重要ではない 1」とし、有効回答の平均値を算出したもの。

※⑫ アウトカム⑫は、⑪と同様「利用実態・満足度調査」の結果に基づくもの。設問「あなたにとって、マガジンバンクにどのくらい満足していますか」に対する回答であり、「とても満足 5、満足 4、どちらともいえない 3、やや不満 2、不満 1」とし、有効回答の平均値を算出したもの。

※⑬ アウトカム⑬は、講演会参加者から取得したアンケート回答による。数値は⑫と同様で、有効回答の平均値を算出したもの。

※⑭ アウトカム⑭は、マガジンバンクに関連する事業が新聞、テレビ、ラジオで取り上げられた回数

4 事業評価（東京マガジンバンク）

1 マガジンバンク用資料の収集

出版不況により雑誌の休廃刊が相次ぐ中、公共図書館としては最大規模である雑誌の集中サービスに十分な雑誌が収集できたと考えている。（根拠は以下(1)～(2)）

今後は、出版動向に目を配り、創刊号コレクションの更なる充実を図っていくこと、また、最新の雑誌収集状況を的確に周知すること等が課題である。

（評価理由）

- (1) 「利用実態・満足度調査」における重要度、満足度ともに 4.0 を超えていること（アウトカム⑪）。
- (2) 平成 24 年 7 月に実施した「雑誌の大量利用に関するアンケート」（※）で、「色々な雑誌類が揃っていて充実している」「雑誌の種類が多くて便利」等、概ね好評であること。

※ 平成 24 年 7 月～平成 24 年 12 月多摩図書館で実施したアンケート調査

アンケート回答数 251（うち聞き取り調査実施数 167）

2 サービス関連

企画展示や図書館ツアー、検索講習会など、資料を活用した各種の取組を行い（アウトプット⑩）、マガジンバンクサービスの利用促進に効果的であったと考えている。（根拠は以下(1)～(5)）

今後は、サービスの向上に向けて、日本雑誌協会や大宅文庫等との協力・連携や、新たな利用者層に向けての広報、より効果的なマガジンバンク講演会の開催等が課題である。

（評価理由）

- (1) 書庫出納冊数が、前年度比 3.7%の増加、検索講習会や図書館ツアーの参加者も増加していること。（アウトプット⑦⑩）
- (2) 企画展・講演会等参加者の満足度は前年度に引き続き高い数値を示していること。（アウトカム⑬）
- (3) 検索講習会と図書館ツアーは、前年度と比べて 1 回当りの参加者が増加し、集客の効率性が上がったこと。（アウトプット⑩）
- (4) 書庫出納冊数の増加は、マガジンバンクの雑誌がより多く利用されていることを示し、幅広い雑誌のバックナンバーを提供しているマガジンバンクサービスの有効性を示していること。（アウトプット⑦）
- (5) 「利用実態・満足度調査」における重要度、満足度ともに 4.0 を超えていること。（アウトカム⑪）

< まとめ >

資料案内の作成・配布、行事の企画・広報等を通じて利用促進の工夫をした結果、書庫出納冊数等の増加や行事参加者の高い満足度が示すとおり、一定の成果・評価を得たと考えている。

今後は、広く都民に向けたサービスに加え、より効果的なサービスの実施に向け、第 25 期都立図書館協議会で提言されたターゲット（放送・新聞・広告関連や文筆業など「情報発信のプロフェッショナル」等）を意識した取組を図る必要がある。

5 平成25年度の取組（東京マガジンバンク）

※8月末、12月末、3月末時点の取組状況を以下に記載しています。

<p>取組 (8月末現在)</p>	<p>1 ターゲットを意識した取組</p> <p>(1) 「東京マガジンバンク」パンフレットを多摩地域の大学に6月に送付した。23区内の大学については10月に送付する。そのうち、社会学、マーケティング等の学部・学科を有する大学を対象に9月以降訪問し、マガジンバンクの内容と利用方法等について広報を行う。</p> <p>(2) マスコミ関連や雑誌編集に携わる人等の興味関心に合致するテーマでの講演会「元気の出る雑誌の話」を10月6日に実施する。参加者にマガジンバンクの資料の厚みとサービス内容を具体的に知ってもらうために、講師の講義を交えた書庫見学も実施する。</p> <p>2 その他</p> <p>(1) 「日本雑誌協会」を訪問し、「雑誌愛読月間」等の取り組みの説明を受けるとともに、協会と多摩図書館の協力可能性について意見交換した(4月19日実施)。後日、協会から「雑誌愛読月間」ポスターを受領し、7月21日の愛読月間開始に先立ち、図書館に掲示した。</p> <p>また10月に行う講演会の参加者募集について、「日本雑誌協会」に協力を依頼した(8月中旬)。</p> <p>(2) 「大宅文庫」を訪問し、書庫の見学、レファレンス対応についての意見交換を行い、今後も相互訪問・意見交換を行うとともに、相互に相手機関の図書館ツアーのちらし配布を行うこととした(6月21日実施)。</p> <p>(3) 引き続き出版動向に目を配り、新刊雑誌を迅速に利用者に提供する。また、特色あるコレクションである「創刊号コレクション」の一層の充実のため、新創刊雑誌だけでなく、既刊雑誌にも留意し、有用な創刊号の収集に努めている。</p> <p>(4) 最新の雑誌収集状況を周知するために、4月から毎月の「ニュータイトル」(新規収集雑誌)紹介をホームページに掲載するとともに、ツイッターで発信している。</p>
------------------------------	---

<p>取組 (12月末現在)</p>	<p>1 ターゲットを意識した取組</p> <p>(1) 「東京マガジンバンク」パンフレットを23区内の大学に10月に送付した。社会学、マーケティング等の学部・学科を有する大学から13大学を選び、11月以降訪問を開始した。現在2大学に連絡し、大学生が「東京マガジンバンク」所蔵雑誌をどのように利用できるかの具体例をあげ紹介した。今後も継続して訪問し、広報を続ける。</p> <p>(2) 東京マガジンバンク講演会「元気の出る雑誌の話」を以下のとおり開催した。</p> <p>日時 平成25年10月6日(日) 午後2時から5時まで</p> <p>内容 個性的な雑誌やミニコミ誌の紹介と、魅力ある雑誌作りの秘訣の紹介など、講師の講義を交えた書庫見学も併せて実施した。</p> <p>参加人数 51人</p>
-------------------------------	--

	<p>2 その他</p> <p>(1)(2)については実施済み。(3)の「創刊号コレクション」については、11月末までに330冊を収集し、引続きコレクションの充実を図った。</p> <p>(4)については、引続き実施中である。</p>
--	--

<p>取組 (3月末現在)</p>	<p>1 ターゲットを意識した取組</p> <p>(1)多摩地区の社会学、マーケティング等の学部・学科を有する7大学を訪問し、「東京マガジンバンク」のPR活動を行うとともに、今後、イベント等を協力して実施する可能性について協議した。</p> <p>(2)東京マガジンバンク講演会『今日もていねいに ー編集長が語る「暮らしの手帖」の今ー』を以下のとおり開催した。</p> <p style="margin-left: 40px;">日 時 平成26年1月26日(日) 午後2時から4時まで</p> <p style="margin-left: 40px;">内 容 編集長となった経緯や『暮らしの手帖』に対する思い、ていねいな暮らしや仕事への向き合い方についてお話しいただいた。</p> <p style="margin-left: 40px;">参加人数 331人</p> <p>2 その他</p> <p>(1)(2)については実施済み。(3)の「創刊号コレクション」については、年間通じて603冊を収集し、引続きコレクションの充実を図った。</p> <p>(4)については、引続き実施中である。</p>
------------------------------	--

5 学校教育活動への支援事業

1 事業概要

特に注力すべきターゲット	1 管下の小・中学校の教育活動を支援する区市町村立図書館 2 都内中高一貫校、高等学校、特別支援学校の教育活動 3 都教育委員会が実施する児童・生徒を対象とする行事や教職員を対象とする研修等
目的	都立図書館の豊富かつ多様な資料を活用して、教育委員会や各学校が取り組む児童・生徒の学力向上や読書活動の振興などの教育活動を支援する。
概要	都内の学校教職員に対するレファレンスサービスをはじめ、調べ学習や教科学習への支援、読書活動に関する情報提供と支援ツール等の作成及び配布、学校への講師派遣等の支援事業を行う。 *経年比較のため、平成23年度と同様、都立図書館が実施する学校支援用ツール(冊子、カード等)の作成・活用と学校レファレンス支援サービスを主な評価対象とする。

2 平成24年度の取組（学校教育活動への支援事業）

1 児童・青少年資料の重点的収集

児童・青少年資料について、調べ学習に対応した教科関連分野の資料を中心に約7,300冊収集した。特に、青少年資料については、都の日本史教科書「江戸から東京へ」に対応した資料を重点的に収集した(インプット①)。

2 学校支援用ツールの活用

(1) 学校支援用ツール(冊子、カード等)の作成および配布

ア 『読み聞かせABC 集団の子供たちへの読み聞かせに』(平成23年度6,000部作成 24年度3,000部増刷)について、都内の全小学校に周知し、要望校へ配布するとともに活用状況の把握のためアンケートを実施した。

(1,363校中、276校(公立261校、私立13校、国立2校))

イ 『これならできる！自由研究 111枚のアイデアカード集』(平成23年度作成、都内全小学校へ配布)の追加配布を実施した。都内全小学校に周知し、希望校へ配布(1,363校中、177校 うち公173校、私2校、国2校)、あわせてアンケートを実施した。

ウ 特別支援学校への支援事業の成果をまとめた『特別支援学校での読み聞かせ 都立多摩図書館の実践から』を作成した。(配布は平成25年度)

(2) 学校支援用ツール(冊子、カード等)を活用した取組

ア 『読み聞かせABC』展示を実施し、冊子の内容及び掲載図書の紹介を「こどもの読書週間」に合わせて行った。(平成24年5月11日～7月4日)

展示に合わせて小学校関係者対象に冊子の活用方法などを紹介する学校支援セミナーを実施した。

(9回実施、参加者数114名)

イ 自由研究講座の開催(公立1校)

『これならできる！自由研究 111枚のアイデアカード集』配布を契機として、配布校から要望があり、カードを活用した自由研究講座を小学校の授業として実施した。

(4 クラス 参加者数 199 名)

ウ 高校での「読み聞かせ講座」の開催 (公立 4 校)

学校からの要望により、家庭科「発達と保育」の授業等で、『読み聞かせに挑戦！中学生・高校生編』(平成 22 年度作成)を活用し実施した。(参加者数 293 名)

エ 学校支援ツールについての広報

- ・ 学校教職員や児童生徒の読書活動に関わる方を対象とした研修などの機会に、学校支援用ツール及び相談サービスについて広報を行った(16回 延べ参加者数335名)。
- ・ 「東京都子供読書フォーラム」(12月実施)や企画展示、公開講座等、子供読書関連事業で展示し、周知を図った。
- ・ 『読み聞かせABC』をホームページで公開した。

3 学校レファレンス支援サービス

10 月にパンフレット「先生、学校司書のみなさん！都立図書館にきいてみませんか？」を作成し、ホームページの「学校支援サービスページ」に掲載した。また、教職員研修「読書活動Ⅲ」において、本サービスの広報を行った。

3 指 標 (学校教育活動への支援事業の各種データ)

指標名		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
イン プ ット	① 受入冊数(児童・青少年資料)	—	—	7,437 冊	7,264 冊
	② 蔵書数(児童・青少年資料)	177,086 冊	182,622 冊	191,333 冊	197,629 冊
	③ 学校支援ツール	種類	—	—	9 種
PR件数		—	—	19 件	30 件
ア ウ ト プ ット	④ 学校からのレファレンス件数	5 件 (中央のみ)	73 件	63 件	35 件
	⑤ 読書活動や学校図書館の運営に関する問合せ件数	17 件	16 件	27 件	130 件
	⑥ 学校支援用ツールの依頼件数	—	—	76 件	587 件
ア ウ ト カ ム	⑦ 満足度(学校レファレンス支援)	—	—	4.20 点 (標本数 20)	— 点 (標本数)
	⑧ 満足度(学校支援用ツール)	—	—	4.55 点 (標本数 51)	4.50 点 (標本数 229)

※ 表中の—は、当該年度が評価対象でなかったため、数値未取得の項目

※ ⑦の平成 23 年度の数値は学校レファレンス支援サービスの利用者に対し実施したアンケート調査によるもの。回答数(標本数)が非常に少なかったことと、また平成 24 年度のレファレンス件数が 35 件に留まっており、同じ方法で実施しても有効な数値の取得が困難であることが予想されたため、平成 24 年度はアンケートの実施を見送った。

4 事業評価（学校教育活動への支援事業）

1 児童・青少年資料の重点的収集

学習活動を支援するため、教科関連分野や調べ学習に有用な基本的な研究書、参考書に留意し、資料収集を進めた結果、学校支援に必要な資料を幅広く収集することができたと考えている。

（評価理由）

「利用実態・満足度調査」において、多摩図書館の蔵書の質・量に対する重要度、満足度はいずれも概ね「重要、または満足」と評価されたこと。

※設問「あなたにとって、この図書館の蔵書の量、蔵書の質は、どのくらい重要ですか。また、どのくらい満足していますか」に対し、とても重要（満足）5、重要（満足）4、どちらともいえない3、あまり重要（満足）ではない2、重要（満足）ではない1で有効回答の平均値を算出したもの。

2 学校支援用ツールの活用

『特別支援学校での読み聞かせ』を作成したことにより、特別支援学校教職員や保護者の支援だけでなく、区市町村立図書館では事例の少ない特別支援学校への支援を拡大することに寄与した。

学校支援ツール（『読み聞かせABC 集団の子供たちへの読み聞かせに』、『これならできる！自由研究111枚のアイデアカード集』）については、配布校での確実な活用をめざし、依頼に基づいて配布したところ、需要は前年度を大幅に上回り（根拠は以下(1)）、連動して読書活動等への相談も増加している。（根拠は以下(2)）

これらのことから、学校支援ツールの活用は着実に広がっているが、『読み聞かせABC 集団の子供たちへの読み聞かせに』『これならできる！自由研究111枚のアイデアカード集』のアンケート結果から見ると一部の学校の利用に留まっていることから、利用する側の立場に立った周知や広報の工夫を図る必要がある。

また一方で、学校支援ツールがどのように利用されているのか十分に把握されていないため、今後、活用状況を把握し、より効果的な活用を推進していくことが課題である。

（評価理由）

- (1) 学校支援用ツールの依頼件数が前年度の76件から587件に大きく増加していること。（アウトプット⑥）
- (2) 読書活動や学校図書館の運営に関する問合せ件数が、前年度の27件から130件に大きく増加していること（アウトプット⑤）

3 学校レファレンス支援サービス

学校レファレンス支援サービスについては、依頼件数が伸び悩んでおり、まだ有効に活用されていない状況であると考える。

（評価理由）

学校レファレンス支援サービスの依頼件数が、前年度63件の約半数である35件に留まったこと。（アウトプット④）

< まとめ >

総じて、資料の収集については、学校支援事業に必要な資料の充実が図られたと考えている。

また、多摩図書館の実践を踏まえて作成された『特別支援学校での読み聞かせ 都立多摩図書館の実践から』や『読み聞かせABC 集団の子供たちへの読み聞かせに』等の学校支援ツールについては、利用者からの評価は高いが、一部の学校の利用に留まっており、更に広く周知を図る必要がある。

さらに、活用状況についても十分把握し、より効果的な活用を推進していくことが課題である。

学校支援レファレンス件数は昨年度比で減少しており、広報方法や学校現場のニーズの把握について検討し、サービスを拡充していくことが課題である。

5 平成25年度の取組（学校教育活動への支援事業）

※8月末、12月末、3月末時点の取組状況を以下に記載しています。

取組

（8月末現在）

1 学校支援用ツールの一層の活用と周知

『特別支援学校での読み聞かせ』（5月に配布 特別支援学校 67校 特別支援学級 805校）については、出張授業等を活用し利用状況の把握に努めるとともに、より効果的な活用を推進していく。

『読み聞かせABC 集団の子供たちへの読み聞かせに』については、より広く普及を図るため増刷を行い、5月15日から有償頒布を開始した（販売実績は8月26日現在で403部）。

『これならできる！自由研究111枚のアイデアカード集』については、アンケート結果を踏まえ、活用事例をホームページで紹介するとともに、より広く普及を図るための有償頒布に向け、冊子形態での刊行準備を進めている（平成26年度）。

これらのツールについては、「教育活動を支援する」という本来の目的に適うよう、作成から配布まで一貫した計画のもとで実施することとし、以下の「子供読書活動推進資料」も同様に行う。

<参考> 子供読書活動推進資料として以下を作成、配布の予定

「子どもたちに物語の読み聞かせを」 都内の全小学校1年生の保護者に計107千部

「扉をあけてⅡ」 都内の全中学1年生に計117千部

「羅針盤Ⅱ 高校生のための本42冊」 都内の全高校1年生に計118千部

2 学校レファレンス支援サービス

都立図書館ホームページの「学校支援ページ」を、年内を目途により分かりやすい内容に改善する。改善した結果の分析を年度内にとりまとめ、翌年度の事業計画に反映させる。

3 その他

児童、生徒の学習活動に沿って編集された図書や、図書館利用に障害のある児童へのサービスに必要な資料を特に留意して収集している。

<p style="text-align: center;">取組 (12月末現在)</p>	<p>1 学校支援用ツールの一層の活用と周知</p> <p>(1) 『特別支援学校での読み聞かせ』</p> <p>以下のように出張授業を行い、効果的な活用を図った。</p> <p>久我山青光学園(5月14日 7月22日、9月19日、10月30日) 特別支援学校読み聞かせ講座(8月7日) ※会場 多摩図書館 福生市立第二小学校 特別支援学級読み聞かせ講座(8月27日) 府中市立第九小学校 特別支援学級読み聞かせ講座(8月30日) 東大和市立第6小学校 特別支援学級読み聞かせ出張講座(9月4日) 調布特別支援学校(9月24日) 大塚ろう学校(10月21日、11月25日) 板橋区立志村小学校 特別支援学級読み聞かせ講座(11月15日) 中野特別支援学校(12月16日)</p> <p>また、9月26日(木)に児童図書館専門研修Ⅱ「特別支援学校の子供たちの学びと読書」を実施し、事例とともに同冊子を紹介し、活用を促した。</p> <p>(2) 『読み聞かせABC 集団の子供たちへの読み聞かせに』</p> <p>9月からの有償頒布の実績は403冊である。</p> <p>11月2日(土)に都庁で行われた東京都子供読書フォーラム「読み聞かせのススめプロに学ぶー」において同冊子を用いた読み聞かせ活動の実践報告を行った。</p> <p>(3) 『これならできる！自由研究111枚のアイディアカード集』</p> <p>申込みのあった小学校3校に対して自由研究講座を実施し、活用事例を蓄積した。</p> <p>また、より広く普及を図るため、簡便な冊子形態での有償頒布(平成26年5月)を準備中である。</p> <p>なお、子供読書活動推進資料(「子どもたちに物語の読み聞かせを」「扉をあけてⅡ」「羅針盤Ⅱ」)について、作成から配布まで一貫した計画のもとで実施するためのルール作りを行った。</p> <p>2 学校レファレンス支援サービス</p> <p>都立図書館ホームページの「学校支援ページ」について、アクセシビリティの向上を図ることを目的に、再構成に着手している。</p> <p>3 その他</p> <p>児童、生徒の学習活動に沿って編集された図書や、図書館利用に障害のある児童へのサービスに必要な資料を継続して収集している。</p>
---	--

<p style="text-align: center;">取組 (3月末現在)</p>	<p>1 学校支援用ツールの一層の活用と周知</p> <p>(1) 『特別支援学校での読み聞かせ』</p> <p>以下について出張授業を行い、効果的な活用を図った。</p> <p>七生特別支援学校(1月20日) 永福学園(1月28日) 久我山青光学園(2月3日)</p>
--	--

八王子東特別支援学校おはなし会(2月5日)
品川特別支援学校(2月10日、2月24日)
八王子特別支援学校(2月18日)
青峰学園(2月25日)
町田市立特別支援教育研究部会(2月19日)

(2) 『読み聞かせABC 集団の子供たちへの読み聞かせに』
1月からの有償頒布の実績は170冊(3月10日現在)である。

(3) 『これならできる！自由研究 111枚のアイデアカード集』
『同 冊子版』の原稿を作成し、平成26年度5月中に都内小学校全校に配布を予定している。また、同カード集はホームページで公開中であるが、より利用者の関心を高め活用促進を図ることを目的としてアクセスランキングの仕組みを3月末に設定した。

2 学校レファレンス支援サービス

都立図書館ホームページの「学校支援ページ」について構成の一部見直しを図り、レファレンス申込画面がより簡単に表示されるようにした。

3 その他

児童、生徒の学習活動に沿って編集された図書や、図書館利用に障害のある児童へのサービスに必要な資料を継続して収集している。

Ⅲ 基礎指標一覧表

項目		説明	21年度	22年度	23年度 ※システム更新	24年度		
図書館資料等	図書館資料 (所蔵)	指標 1 所蔵状況(図書)	都立図書館の図書資料冊数。年鑑年報を含む。		2,369,886冊	2,404,076冊	2,427,216冊	2,451,044冊
		指標 2 所蔵状況(雑誌)	都立図書館の雑誌の種類数		22,967種	23,586種	23,768種	24,097種
		指標 3 開架冊数(図書)	都立図書館における開架冊数		中央 322,108冊 多摩 32,065冊	中央 336,854冊 多摩 35,577冊	中央 339,330冊 多摩 38,829冊	中央 368,522冊 多摩 39,852冊
	図書館資料 (受入)	指標 4 資料購入費(予算額)	都立図書館の年度における資料購入費用		319,651千円	319,651千円	319,578千円	319,578千円
		指標 5 参考図書資料購入費	都立図書館の年度における参考図書資料の購入費用		54,752千円	55,463千円	46,773千円	47,469千円
		指標 6 図書資料受入冊数(購入、寄贈等)	都立図書館の年度における受入した図書資料冊数。年鑑年報及び外国語資料を含む。		購入 47,973冊 受贈 9,446冊 自館作成等 86冊	購入 48,889冊 受贈 9,362冊 自館作成等 5,261冊	購入 46,066冊 受贈 9,130冊 自館作成等 7,440冊	購入 42,131冊 受贈 9,849冊 自館作成等 23,165冊
		指標 7 雑誌受入タイトル数	都立図書館の年度における受入した雑誌の種類数		購入 4,041種 受贈 4,619種	購入 4,105種 受贈 4,879種	購入 4,208種 受贈 4,601種	購入 4,063種 受贈 4,475種
	図書館資料 (保存)	指標 8 製本冊数	館内外において、製本を行った冊数(館内製本、館外製本)		館内製本 1,940冊 館外製本 1,616冊	館内製本 2,074冊 館外製本 1,622冊	館内製本 2,196冊 館外製本 1,759冊	館内製本 2,856冊 館外製本 1,883冊
		指標 9 特別文庫室所蔵資料デジタル化件数	特別文庫室所蔵資料の年度におけるデジタル化の件数		4,198件	3,264件	4,340件	6,602件
	ホームページ	指標 10 ホームページ数	都立図書館ホームページとして掲載しているページ数		5,145ページ	4,911ページ	7,570ページ	8,369ページ
	蔵書検索データベース	指標 11 蔵書検索データベースレコード数(書誌数)	都立図書館の「蔵書検索」データベースにおける書誌数		3,007,062書誌	3,130,921書誌	3,333,682書誌	3,429,986書誌
	統合検索システム	指標 12 統合検索対象サイト数	統合検索の対象となるサイト数		52サイト	52サイト	69サイト	70サイト
	オンラインデータベース	指標 13 オンラインデータベース提供経費	オンラインデータベースを提供するための費用		12,583千円	16,354千円	15,086千円	17,360千円
		指標 14 オンラインデータベース提供数	オンラインデータベースの提供数(種類)		28種	32種	32種	34種
来館状況	指標 15 入館者数	都立図書館(中央・多摩)への入館者数		430,754人 中央:1,018/日 多摩:272/日	443,739人 中央:1,041/日 多摩:306/日	416,246人 中央:980/日 多摩:300/日	428,226人 中央:994/日 多摩:282/日	
	指標 16 書庫内図書利用冊数	都立図書館(中央・多摩)での書庫内図書の利用冊数		469,220冊 中央:894/冊 多摩:542/冊	527,586冊 中央:1,050/冊 多摩:545/冊	483,113冊 中央:963/冊 多摩:520/冊	457,130冊 中央:888/冊 多摩:474/冊	
	指標 17 来館者資料利用冊数	都立図書館の来館者が資料を利用した延べ冊数(1日当たり、1人当たり)。資料は開架閉架を問わない。		3,868冊/日 4.18冊/人 (中央)	5,568冊/日 4.91冊/人 (中央)	3,789冊/日 3.71冊/人 (中央)	— ※1	

項目			説明	21年度	22年度	23年度 ※システム更新	24年度	
利用状況		指標 18	来館者資料閲覧時間	都立図書館来館者の館内滞在時間に対する資料を閲覧(利用)していた1日当たりの時間 (下段 アンケート)	1,038時間/日 (1,357時間/日) (中央)	1,571時間/日 (1,866時間/日) (中央)	1,029時間/日 (1,169時間/日) (中央)	— ※1
	館内利用	指標 19	来館者資料閲覧時間率	都立図書館来館者の館内滞在時間に対する資料を閲覧(利用)していた時間の割合	41.0% (中央)	52.6% (中央)	59.7% (中央)	— ※1
		指標 20	複写枚数	都立図書館(中央・多摩)での複写枚数	2,004,560枚 中央:5,541/枚 多摩:474/枚	2,079,595枚 中央:5,811/枚 多摩:531/枚	2,000,433枚 中央:5,657/枚 多摩:510/枚	1,840,640枚 中央:4,997/枚 多摩:494/枚
		指標 21	インターネットパソコン総利用時間	提供している全てのインターネットパソコンが利用された延べ時間及び総利用件数	23,186件 11,593時間	25,525件 12,763時間	24,538件 12,269時間	23,281件 11,641時間
		指標 22	オンラインデータベース総利用時間	提供している全てのオンラインデータベースが利用された延べ時間及び総利用件数	7,648件 3,824時間	10,007件 5,004時間	9,729件 4,865時間	11,285件 5,643時間
	ホームページ	指標 23	ホームページアクセス数(トップページ)	都立図書館ホームページのうち、トップページへのアクセス数	1,277,356アクセス	1,210,493アクセス	1,273,998アクセス	1,405,262アクセス
		指標 24	ホームページアクセス数(全ページ)	都立図書館が作成・提供している全てのページへのアクセス数	10,358,387アクセス	15,255,839アクセス	10,986,839アクセス	8,363,158アクセス
		指標 25	ユニークユーザー数	都立図書館が作成・提供している全てのページへの月最多ユニークユーザー数(延べではなく正味の数)	33,705アクセス	28,499アクセス	97,894アクセス	45,810アクセス
	蔵書検索データベース	指標 26	蔵書検索データベースアクセス数及び検索回数	都立図書館の「蔵書検索」データベースへのアクセス数及び検索回数	1,564,223アクセス 3,958,606回	1,548,343アクセス 5,079,736回	— 5,475,487回	9,151,802アクセス 5,274,056回
	統合検索システム	指標 27	統合検索検索回数	統合検索への検索回数	—	—	897,492回 (12月から3月)	2,869,863回
	レファレンス	指標 28	レファレンス件数	都立図書館に寄せられた全レファレンスの件数 ※()は案内スタッフによる簡易な対応	86,435件 (11,565件)	89,900件 (10,619件)	84,121件 (11,633件)	79,370件 (14,074件)
		指標 29	情報リテラシー支援件数	都立図書館に寄せられた全情報リテラシー件数	10,607件	11,229件	6,779件	6,422件
		指標 30	協力レファレンス件数	区市町村立図書館から申し込まれた協力レファレンスの件数	580件	428件	482件	612件
	協力貸出	指標 31	協力貸出冊数	都立図書館が都内公立図書館に貸出した資料の冊数	92,698冊	95,885冊	91,376冊	86,780冊
		指標 32	区市町村立図書館相互貸借冊数及び充足率	区市町村立図書館が他館から借用した資料のうち、区市町村立図書館から借用した冊数及びその割合	277,724冊 74.0%	185,557冊 74.4%	212,069冊 69.6%	264,387冊 72.9%
指標 33		都内貸出(協力貸出・相互貸借)冊数及び充足率	区市町村立図書館が他館から借用した資料のうち、都立及び都内区市町村立図書館から借用した冊数及びその割合	370,422冊 98.6%	380,748冊 97.7%	280,228冊 91.9%	343,228冊 94.6%	

		項目		説明	21年度	22年度	23年度 ※システム更新	24年度				
実施事業	行事・展示会	指標 34	開催回数	行事・展示会（都立図書館が主催した展示、講演会等、映画会）の開催回数	展示等 映画会	37回 15回	展示等 映画会	19回 26回 37回	展示 講演会 映画会	20回 27回 39回		
		指標 35	来場者数	行事・展示会に来場した人数。ただし、ミニ展示、スポット展示を除く。	展示等 映画会	54,166人 729人	展示等 映画会	79,254人 1,100人	展示 講演会等 映画会	61,210人 3,658人 2,015人	展示 講演会等 映画会	118,930人 4,594人 1,964人
		指標 36	来場者新規認知者数及び認知度	特定の行事・展示会の来場者数のうち、新たに都立図書館を知った人数及び知っている人の割合		867人 64.75%		1,681人 71.4%	851人 79.1%		1,628人 78.2%	
		指標 37	マスコミ露出度	行事・展示会が新聞、ラジオ、テレビに取り上げられた回数	展示等 映画会	56回 7回	展示等 映画会	90回 0回	講演会等 展示 映画会	25回 52回 4回	講演会等 展示 映画会	30回 71回 6回
	区市町村立図書館協力支援事業	指標 38	協力支援事業数（研修会・講演会）	都立図書館が提供している協力支援事業のうち研修会、講演会等の開催件数		26事業		28事業	27事業		28事業	
		指標 39	協力支援事業参加者数	都立図書館が提供している協力支援事業のうち研修会、講演会等の参加者数		1,843人		1,696人	1,568人		1,482人	
	子供読書活動推進及び学校教育活動支援関連事業	指標 40	子供読書活動推進及び学校教育活動支援関連事業数	都立図書館がかかわる子供読書活動推進及び学校教育活動支援に関連した、講演会、研修などの事業数		37事業		子供読書推進 学校活動支援 20事業 18事業	子供読書推進 学校活動支援 16事業 27事業		子供読書推進 学校活動支援 16事業 27事業	
		指標 41	子供読書活動推進事業参加者数	子供読書活動推進事業に関する行事の来場者数		3,185人		8,880人	10,165人		26,001人	
		指標 42	子供読書活動推進資料配布数	読書活動推進のために配布する資料の全配布数		238,751冊		118,000冊	215,970冊		216,930冊	
	※事業別指標のサービスを除く。 重点的 情報サービス等	都市・東京情報サービス	指標 43	受入冊数（東京関係資料）	都立図書館の年度における受入した図書資料冊数。年鑑年報を含む。（東京関係資料）		—		—		4,764冊	4,630冊
			指標 44	書誌数（図書）（東京関係資料）	都立図書館の蔵書検索データベースにおける東京関係資料の書誌数。年鑑年報を含む。		204,723書誌		242,227書誌		254,441書誌	258,481書誌
			指標 45	開架冊数（東京関係資料）	東京情報サービスコーナーにおける東京関係資料の開架冊数		29,095冊		30,995冊		30,613冊	32,252冊
指標 46			都市・東京情報コーナー入室者数	都市・東京情報サービスコーナーの入室者数		496人／日		506人／日		468人／日	450人／日	
指標 47			東京に関するレファレンス件数	都立図書館に寄せられた東京に関するレファレンス件数（指標28の内数）		8,830件		8,762件		9,960件	9,177件	
児童・青少年資料サービス、 学校支援サービス		指標 48	受入冊数（児童・青少年資料）	都立図書館の年度における受入した図書資料冊数。年鑑年報を含む。（児童・青少年資料）		—		—		7,487冊	7,264冊	
		指標 49	蔵書数（児童・青少年資料）	都立図書館における児童・青少年資料の蔵書数。年鑑年報を含む。		177,086冊		182,622冊		191,333冊	197,913冊	
		指標 50	開架冊数（児童コーナー・青少年コーナー）	都立多摩図書館の児童青少年サービスの各コーナーにおける図書の開架冊数		—		—		35,651冊	36,334冊	
		指標 51	児童青少年の多摩図書館入館者数	都立多摩図書館の年度における児童青少年の入館者数		4,047人		7,449人		8,436人	7,218人	
		指標 52	児童・青少年資料に関するレファレンス件数	都立図書館に寄せられた児童・青少年資料に関するレファレンス件数（指標28の内数）		534件		1,150件		1,060件	1,184件	

項目			説明	21年度	22年度	23年度 ※システム更新	24年度	
※事業別指標のサービスを除く。 重点的情報サービス等	児童・青少年資料サービス、 学校支援サービス	指標 53	学校からのレファレンス件数	学校（教職員等）から都立図書館に寄せられたレファレンス件数	5件	73件	63件	35件
		指標 54	学校支援用ツール数	学校での読書活動や学校図書館の運営を支援するツール（啓発資料・ブックリスト等）の数	—	—	9種	9種
		指標 55	学校支援用ツールのPR件数	学校での読書活動や学校図書館の運営を支援するツール（啓発資料・ブックリスト等）についてHP、チラシ、会議等でPRした件数	—	—	19件	30件
		指標 56	学校支援用ツールの依頼件数	学校での読書活動や学校図書館の運営を支援するツール（啓発資料・ブックリスト等）について、学校等から提供を依頼された件数	—	—	76件	587件
		指標 57	学校からの問い合わせ件数	学校での読書活動や学校図書館の運営に関する問い合わせの件数	—	—	27件	130件
利用者重要度・満足度	全体	指標 58	都立図書館重要度・満足度	都立図書館全体に対する来館者の重要度及び満足度	重要度 4.37点 満足度 4.05点 (標本数 2,502)	重要度 4.37点 満足度 4.07点 (標本数 2,490)	重要度 4.44点 満足度 4.14点 (標本数 2,372)	重要度 4.45点 満足度 4.17点 (標本数2,263)
	図書館資料	指標 59	満足度（蔵書の質・量）	都立図書館の蔵書の質、量に対する来館者の満足度	中央 質量 4.00点 3.95点 (標本数 2,022)	中央 質量 4.00点 3.97点 (標本数 2,010)	中央 質量 4.02点 3.98点 (標本数 1,943)	中央 質量 4.07点 4.05点 (標本数 1,882)
		指標 59			多摩 質量 3.54点 3.40点 (標本数 480)	多摩 質量 3.64点 3.52点 (標本数 480)	多摩 質量 3.66点 3.53点 (標本数 429)	多摩 質量 3.76点 3.67点 (標本数 381)
	図書館資料	指標 60	満足度（ホームページ）	都立図書館ホームページに対する来館者の満足度	中央 3.68点 (標本数 2,022)	中央 3.63点 (標本数 2,010)	中央 3.68点 (標本数 1,943)	中央 3.72点 (標本数 1,882)
		指標 60			多摩 3.49点 (標本数 480)	多摩 3.67点 (標本数 480)	多摩 3.64点 (標本数 429)	多摩 3.68点 (標本数381)
	図書館資料	指標 61	満足度（レファレンス）	レファレンスに係る回答の内容、回答の速さ、職員の対応に対する来館者の満足度	中央 内容 3.83点 速さ 3.85点 対応 3.91点 (標本数 2,022)	中央 内容 3.85点 速さ 3.86点 対応 3.89点 (標本数 2,010)	中央 内容 3.85点 速さ 3.84点 対応 3.88点 (標本数 1,943)	中央 内容 3.91点 速さ 3.91点 対応 3.97点 (標本数 1,882)
		指標 61			多摩 内容 3.82点 速さ 3.84点 対応 3.91点 (標本数 480)	多摩 内容 3.89点 速さ 3.89点 対応 3.97点 (標本数 480)	多摩 内容 3.83点 速さ 3.79点 対応 3.92点 (標本数 429)	多摩 内容 3.88点 速さ 3.88点 対応 4.01点 (標本数381)
	実施事業	指標 62	満足度（行事・展示会）	行事・展示会に対する来場者の満足度	—	4.1点 (標本数 7,416)	4.2点 (標本数 7,079)	4.2点 (標本数 7,481)
		指標 63	満足度（協力支援事業）	都立図書館が提供している協力支援事業のうち研修会、講演会等に対する満足度	—	—	4.4点 (標本数 440)	4.6点 (標本数 509)
	重点的情報サービス等 ※事業別指標のサービスを除く。	指標 64	満足度（都市・東京情報サービス）	都市・東京情報サービスに対する来館者の満足度	3.8点 (標本数 2,022)	3.84点 (標本数 410)	3.82点 (標本数 1,238)	3.99点 (標本数 388)
		指標 65	満足度（児童・青少年サービス）	児童・青少年サービスに対する来館者の満足度	3.8点 (標本数 59)	3.99点 (標本数 76)	3.73点 (標本数 62)	3.66点 (標本数 381)
		指標 66	満足度（学校からのレファレンス・相談）	学校レファレンス支援サービスの利用者の満足度	—	—	4.2点 (標本数 20)	— ※2
		指標 67	満足度（学校支援用ツール）	都立図書館作成の学校支援用ツールを利用した学校等の満足度（アンケートにより算出）	—	—	4.5点 (標本数 51)	4.5点 (標本数 229)
その他	指標 68	事業費	管理運営、サービス事業、資料収集整理等の予算（事業費）	1,098,008千円	1,181,124千円	1,369,053千円	1,235,495千円	

—は未調査項目 うち

※1 「閲覧時間調査」により算出 当調査は平成24年度は未実施

※2 学校支援レファレンスサービスの利用者に対し実施したアンケート調査 平成24年度は未実施